

R-CAP

埼玉

私立国際学院高校

「R-CAP」を軸に、全体計画を見直し、将来を語り合う喜びがあるライフプラン発表会を実現

DVD、講演など、すべて活用し仕事の多様さを伝える

本気で悩み考えさせる質問だからこそ答える価値がある

総合学科高校である国際学院高校は、1学年の「産業社会と人間」を将来の生き方や働き方を考える時間として重視している（詳細は左表）。「毎年改善を重ねながら内容の充実に努めていますが、今年はリクルートの進路教材を軸に計画を立て直しました」という進路指導部主任の田中直樹先生。

「R-CAP」の活用方法を知りアドバイスの方針が明確に

6月には50人の仕事人が仕事のやりがいなどを語る本「じぶん未来BOOK」を利用した。この本は「配るだけ」という年も多かったが、今年はより高い効果をねらい、DVDの視聴とリクルートスタッフによる講演を行った。さらにワークシート「未来に近づく方法をイメージしてみよう」にも取り組み、本を最大限活用した。

毎年1学年の12月には今まで学んだことの集大成として、将来の夢とその夢をかなえるために今できることをプレゼンする「ライフプラン発表会」が行われる。今年はその代表者に立候補する生徒が例年よりかなり多かった。そしてどの生徒の発表からも「将来についてみんなに聞いてほしい」という、素直な喜びが感じられ、多くの生徒が将来への前向きな希望や意欲を感じていることが実感できたそう。

以前から1学年の4月に職業や学問の適性を分析する「R-CAP」を使ってきたが、「診断結果を十分生かされていない」という課題があった。そこで今年はリクルートのスタッフによる講演会を実施。結果の見方などを聞き、さまざまな疑問を解決できた。

「今年には野球施設の管理人、バスガイドなどバラエティーに富んだ職業があり、例年以上に仕事の多様性に目を向けることができました」と阿部先生。10月には「文理選択・科目選択応援BOOK」を使い、ワークシート「文理・科目選択をじっくり考えよう」に取り組んだ。悩んでいる生徒に対しては、「R-CAP」の診断結果を振り返るよう指示。ここでも改めて仕事の多様さや将来の可能性を考えさせることができた。

「リクルートのワークシートは『本当にやりたいことは何か』を問うので、時間がかかり、迷いや悩みも生じます。でもその意義を信じ、教員が生徒に根気強く向き合ったからこそ、大きな成果が出た年になりました」と田中先生。

異色の存在として力を発揮できる可能性があるとわかり、私自身がすっきり。以来自信をもって「R-CAP」を活用できるようになりました」と1学年主任の阿部美智子先生。

リクルートサービスを活用した指導実践例

2012年度「産業社会と人間」の主な流れ

ダウンロード可

4月	入学時の進路希望・意識調査
5月	R-CAP実施、リクルートスタッフによる講演会
6月	「じぶん未来BOOK」、DVD視聴、リクルートスタッフによる「じぶん未来講演」、ワークシート実施、自分史作成、「未来の履歴書」作成開始
7~8月	夏休み課題「未来の履歴書」作成
9月	文化祭にて「未来の履歴書」展示・発表
10月	大学訪問、事業所（東京証券取引所、日本銀行、JAL機体整備工場など）訪問
10月~	ライフプラン作成
11月	ライフプランのクラス内発表
12月	ライフプランの代表者発表会

「産業社会と人間」の時間をキャリア教育に最大限活用できるのは総合学科の大きなメリット」と田中先生。生徒も毎週2時間、必ず進路や将来についてじっくり考える癖がついているという。

「ライフプラン発表会」の様子



代表発表会ではパワーポイントでの資料作成やプレゼン指導も行われる。この生徒はある鉄道会社への入社希望をもって、夏休みに企業訪問して取材した入社試験や入社後の仕事内容などを発表。会社から借りた帽子をかぶりアナウンスを実施するなど、工夫をこらしたプレゼンだった。



進路指導部主任
田中直樹先生(左)
1学年主任
阿部美智子先生(右)

「自分の意思で行動し、社会的な責任を果たしながら道を切り開く力をつけてほしいです」（田中先生）。「もし生徒を傷つけてしまったことがあったら、素直に謝れるような先生でありたいと思っています」（阿部先生）。

